

第1回博多港カーボンニュートラルポート（CNP）形成推進協議会

議事概要

1. 日 時

令和4年7月12日（火）13時30分から15時00分まで

2. 場 所

博多港センタービル2階会議室

3. 出席者

岩谷産業株式会社、ENEOS株式会社、九州電力株式会社、西部ガス株式会社、豊田通商株式会社、日本郵船株式会社、博多港運協会、一般社団法人博多港振興協会、博多港ふ頭株式会社、福岡県倉庫協会、公益社団法人福岡県トラック協会、福岡地区旅客船協会、九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所、福岡市環境局、福岡市港湾空港局（事務局）

4. 議事概要

（1）博多港 CNP 形成推進協議会について

事務局より、博多港 CNP 形成推進協議会の目的、協議会及び博多港 CNP 形成計画策定の進め方等について説明。

（2）国における CNP の取組みについて

九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所より、CNP 形成に向けた施策の方向性、CNP 形成計画策定マニュアル（初版）の概要、国の補助制度について説明。

（3）福岡市における脱炭素化の取組みについて

福岡市環境局より、福岡市地球温暖化対策実行計画原案、福岡市役所地球温暖化対策率先実行計画について説明。

（4）民間事業者における脱炭素化の取組みについて

博多港ふ頭株式会社より、博多港国際コンテナターミナルにおける脱炭素化への取組みについて説明。

(5) 博多港 CNP 形成に向けた検討の方向性について

事務局より、博多港 CNP 形成に向けた検討の方向性について説明を行い、構成員より主に以下の意見が示された。

- ・他港で先行して取り組まれている施策を参考にできないか。
- ・民間事業者にとっては、環境意識だけで脱炭素化によるコスト増を受け入れることが難しい。先に取り組む者が損しないように、規制やインセンティブ制度づくりを行政主導でお願いしたい。
- ・博多港の CNP を考えていく上では、ハードの対応だけでは民間事業者のコスト増が負担となるので、例えば輸送の効率化などソフトの部分で対策を検討していくことも必要ではないか。
- ・船は長期間にわたり使用するものであり、すぐに脱炭素化に対応した船へ造りかえるのが難しいことから、例えば、陸上電源設備の普及など、できるところから取組みを進めたほうがよい。
- ・九州地区は再生可能エネルギーが豊富なエリアであり、それを利用した CO2 フリー水素の供給ができないか。
- ・中部水処理センターで下水汚泥から製造している水素を博多港へ供給できないか。また、必ずしもすべて水素へ転換するのではなくバッテリー化も一つの選択肢ではないか。
- ・港湾エリアに水素ステーションを設置して、港湾のフォークリフト等を燃料電池で動かすことはできないか。

以上